

第2次熊本市食の安全安心・食育推進計画策定に係る
第1回計画策定部会（食の安全安心）議事概要

1 開催日時： 平成24年8月8日（水）14：00～16：00

2 場所： ウェルパルクまもと 4階 401会議室 AB

3 出席委員

秋吉澄子、江藤晶、北川和喜、木村彰宏、清田賢治、小山和作、谷口憲治、
永吉景子、林田祐典、古庄眞喜、松高博、山中康博（五十音順・敬称略）

4 健康福祉子ども局食品保健課長挨拶

5 議事録（要旨）

議事進行（小山会長、互選）

平成24年度熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート(速報)及びアンケートの成果指標（安全安心）速報について食品保健課から報告説明
第2次熊本市食の安全安心・食育推進計画（骨子案）のうち「食の安全安心」に係る部分について食品保健課から説明

～策定委員からの意見～

- ・ H24 熊本市アンケートで不安に感じている事項「放射性物質」は低位（8位/17項目）であったが、全国的にはトップと思われる。あわせて産地偽装も問題。 [江藤委員]
- ・ 原発事故を受けて、食の安全安心部分についても、目に見える形での具体的体制をアピールすべきでは。 [木村委員]
- ・ 原発事故の影響に関しては、学者間でも見解の違いが大きく、「日本全国被害を訴える者」と広島・長崎の原爆被害を引き合いに「自然放射線とともに共存を唱える者」とおり、被爆量の閾値もはっきりしない。問題に対する事前の体制作りをアピールすることが重要では。 [小山会長]

- ・ 放射能問題は、子どもを持つ親で関心が非常に高いと思われる。残留基準値内のものは、子どもや病気の人を除く周りの人々が引き受けては？検査は実施すべきであるし、検査や調査した結果はすすんで公表すべきでは。[永吉委員]
- ・ 鶴屋検査室でもシンチレーションサーベメーターを導入済み。250 件/月で検査実施した。バックグラウンドの 15%検出で精密検査を外部検査機関へ依頼する。これまでに 1 件（自然界に存在する核種、カリウム/鉛）検出があった。[古庄委員]
- ・ 各種検査は、どこが責任もってやるべきか？ 流通のうち、製造者・流通業者・販売者、また行政なのか？ 行政なら、国・県・市・第 3 者機関？全国的には自主検査充実の方向と思われる。[清田・松高・江藤委員・小山会長]
- ・ 馬刺しは、今回の牛レバー刺し禁止を受けて、人気が出ていると聞く。安全安心を売り込むチャンス。[山中委員]
- ・ H25.10 月に県主体で「全国ゆたかな海づくり大会」が開催されるが、熊本市も積極的に関与して、食の安全安心をアピールするチャンスでは。[松高委員 小山会長]
- ・ 6 月開催された熊本県主催の馬刺し試食会では、凍結・解凍馬刺しとわからないほどの食味であった。全国的には生食用のうち「鮪」・「鯨」は凍結・解凍品であり遜色ないはず。田崎市場での鮪流通 95%がチルドであり、解凍に慣れていない可能性がある。馬刺し解凍方法の周知が必要。[松高・谷口・林田・北川委員・小山会長]
- ・ 中小規模の製造業者は慢性的に知識不足・経験重視の傾向が強い。これからも衛生知識の周知・教育は続けていただきたい。[北川委員]
- ・ 7 月 1 2 日水害を受けて、水害・台風被害施設への衛生指導や営業再開のお墨付きはどうしているのか？（事務局より = 必要に応じて、被害調査や衛生指導をすみやかに実施している。再開に係る命令等はない）[北川委員]
- ・ 食品衛生に係る管理は、大きなところでは第 3 者機関と自主検査・衛生指導についての協定(契約)を結び実施している。鶴屋では、取引先・商品試

験室・本社業務部で共同管理している。 [山中・古庄委員]

- ・ 中食の購入先として上位の「コンビニエンスストア」については、中小規模の製造業者にとってライバルで脅威であるが、商品の表示内容や仕入れ・管理方法については参考になる部分が多い。参考にしたい。 [北川委員]
- ・ さまざまな問題や検討項目は計画に盛り込むに当り、熊本市内での問題と全国への影響をバランスよくアピールできるよう提示することが重要と思われる。 例；HACCP、放射性物質 [江藤委員]
- ・ 熊本市版 HACCP に関しては、裾野を広げる(取り組み施設の拡大)と市民への制度の広報・周知が必要では。 [木村・永吉委員]
- ・ 検討の中で多く出た「放射性物質」や「残留農薬」の問題をはじめ、いろんな認証・周知によって「食の安全安心」につながるものと思う。 [小山会長]